

忘れてはいけ ない、 繰り返してはいけ ない史実……

多くの尊い命が犠牲となり、人々の心に大きな傷あとを残した第二次世界大戦の終結から今年で70年です。

戦争を体験した人の高齢化も進み、戦争の記憶が風化していくなか、人口9千人余りのまちだった仙崎が「引揚げ港」として約41万人もの引揚者を受け入れた激動の1年半は決して忘れてはならない史実であり、私たちが後世に語り継いでいかなければなりません。

戦争が終結して……

昭和20年8月15日、第二次世界大戦は日本の降伏により幕を閉じました。この時、中国や朝鮮半島をはじめとする海外の諸地域に残された日本人は軍人や一般人などあわせて約660万人とされています。

日本政府は国家の緊急的課題として、これら膨大な数の人々

を速やかに日本へ帰国させる大事業に取り組みました。これを「引揚げ」といいます。

昭和20年9月、博多や佐世保、舞鶴など国内十数カ所が「引揚げ港」として指定され、山口県では下関港が指定されました。しかし、関門海峡に沈没船や米軍が投下した機雷があるため航行が危険であると判断され、仙崎港が「引揚げ港」に指定されました。



▲昭和20年代の仙崎のようす



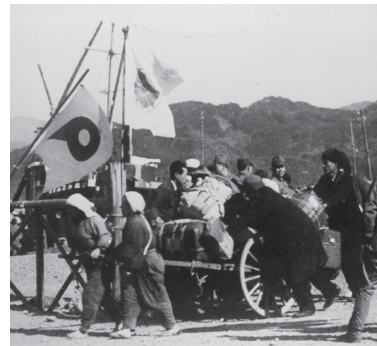
復員兵の仙崎上陸

昭和20年9月2日の夕方、下関と韓国釜山を結ぶ連絡船「興安丸」(2千t)が第1便として、定員1,750人の船に約7千人もの引揚者を乗せ仙崎港に入港しました。

「陸が見えるぞ!」という叫びとともに、引揚者は甲板から鈴なりのように半身を乗り出し、涙を浮かべながらの棧橋への第一歩だったそうです。

仙崎港には、引き続き興安丸が1日おきに入港。12月には「朝博丸」(2千t)「大隅丸」(1千t)、「泰北丸」(1千t)が加わり、昭和21年3月以降はアメリカ軍の上陸用船艇が配給され、引揚げが続けられました。

引揚者は、身の危険が迫る中、すべてを捨て祖国を目指し、幾多の労苦を乗り越えながらやっとの思いで日本に帰ることがで



▲引揚者を援護する地元婦人

きましたが、その道のりは険しく、引揚げ途中で亡くなった人も多くいました。

住民総出による救援活動

疲労困憊の極限にあった引揚者の救援活動は、食事、医療、宿泊など多岐にわたりました。引揚げ援護の事務所が円究寺に置かれ、そのほかの寺院や学校が救護所、宿泊所にあてられました。棧橋では青年団による弁当の配布、婦人会による炊き出し、仙崎付近の病院を開放しての診療など、まさに住民総出による援護が行われました。

特に宿泊所については、応急の施設も建設されましたが対応しきれず、正明市駅(現長門市駅)付近の住民も協力して多くの引揚者を受け入れました。

この史実を次の世代へ

昭和21年末、仙崎港が引揚げ港としての役割を終えるまでに上陸した人は、復員軍人が約11万人、一般人が約30万人、合わせて41万人を数えました。さらに、仙崎港から引揚げ船に乗船して



▲円究寺における引揚げ援助事業

朝鮮半島などに帰国した人が約34万人。まさに大混乱の1年半でした。

私たちは、戦争という悲しみの歴史が繰り返されることのないよう、今ある平和の尊さをしっかりと認識し、この「引揚げ」という史実をこれからも後世に語りついでいかなければなりません。

(写真提供…ニュージールランド「アレキサンダー・タンブル図書館」)

「引揚げ・仙崎展」開催中

■会期 9/13(日)まで

10:00～16:00

■会場 ルネッサながと

文化情報ギャラリー

■問い合わせ ルネッサながと

Tel 26-6001

仙崎に残る

引揚げ関連スポット

海外引揚げ上陸跡地
引揚者はこの場所から祖国への第一歩を踏み出しました。

●場所「青海大橋」バス停そば



▲上陸地点に立つ標識

引揚げ記念碑

平成4年1月に、平和への祈りを込めて設置されました。

●場所 青海島観光基地入口



▲引揚げ記念碑

まちなかギャラリー

引揚げ当時の写真や資料のほか、長門市在住のイラストレーター尾崎眞吾氏が描いた「興安丸」のイラストを展示。

●場所 仙崎1401番地1

JR仙崎駅から徒歩7分



▲ギャラリーのようす

海外引揚げ50周年記念手記集「歴史の証言」販売中

平成7年に引揚げ50周年を記念し、引揚者の体験を編集した書籍です。1冊2,200円で観光課にて販売しています。



■問い合わせ

観光課観光振興係

Tel 23-1137